

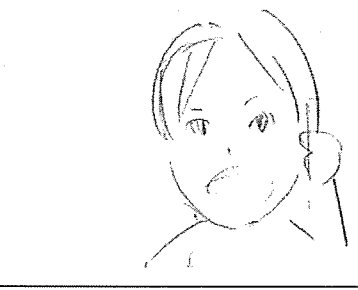
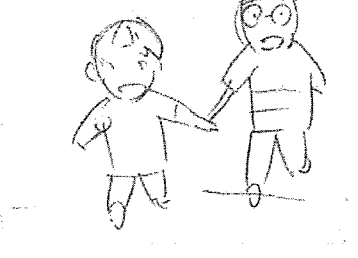

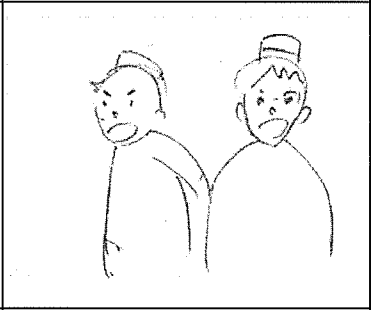
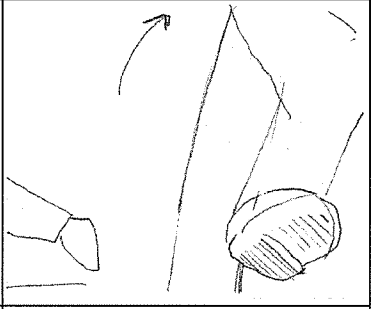

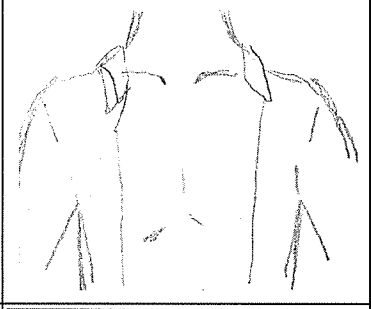
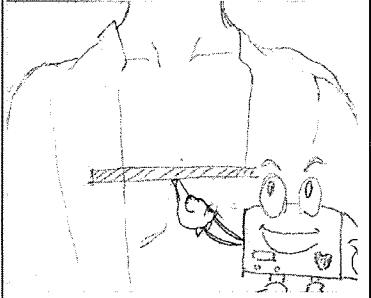
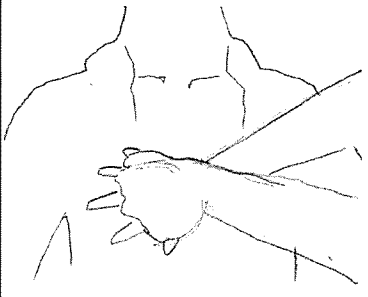



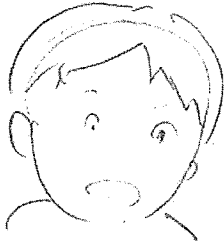
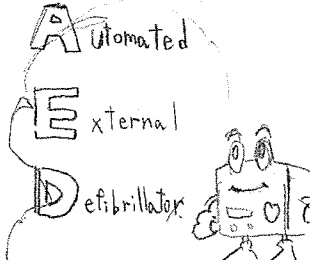
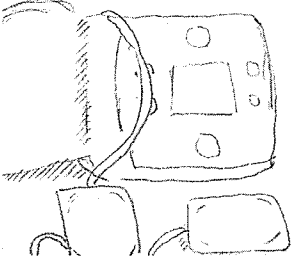




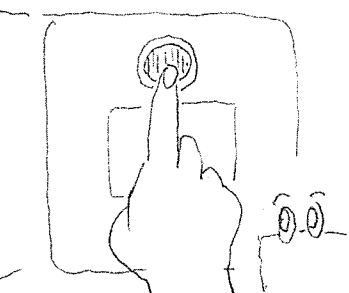
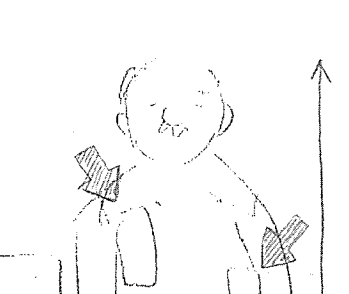
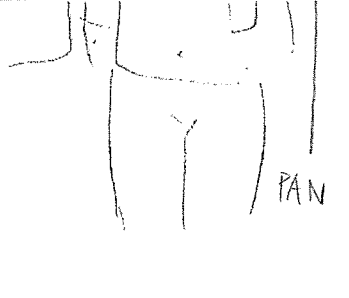

C	音声	画面	内容	秒
	消防署指令室「火事ですか？救急ですか？」 まこ「救急です」 消防署指令室「場所はどこですか？」 まこ「〇×市の〇×スーパーです」 消防署指令室「どうしましたか？」 まこ「おじいちゃんが突然倒れて、呼びかけても、応えてくれないんです」			
33	消防署指令室 「応急処置の仕方はわかりますか？」 まこ「わかりません。」 「近くに誰かいますか？」 「はい、店員さんが向こうに見えます」			
34	消防署指令室 「はい、わかりました。すぐに出動します。」			
35	まこ 「早く、早く、助けてエ！」		切迫感を	
36	しろう 「こっちです！」		電話を切ると、 しろうがスーパーの 店長を連れて戻ってくる。  パート3 終了	

C	音声	画面	内容	秒
37			<p>パート4【一般の人による蘇生、AED】</p> <p>○同スーパー内</p> <p>倒れているおじいちゃんの元に駆け寄る店長としよう。</p>	
38	<p>店長 「大丈夫ですか！わかりますか？」</p>		<p>店長、おじいちゃんの肩を叩くが応答がない。</p>	
	<p>まこ「さっきから呼びかけてるんですけど、ぜんぜん反応がないんです」</p> <p>店長「救急車は呼びましたか」</p> <p>まこ「はい。こちらに向かっています」</p>		<p>まこ、店長の元により話しかけ</p>	
39	<p>店長 「分かりました。おい君！」</p>		<p>店長、店員を呼ぶ。</p>	
40	<p>店長 「救急車が来たときに誘導出来るよう、店の外で待機してください！」</p> <p>店員「はい」</p> <p>店長「それから君は、AEDを直ぐに持って来てください！」</p>			



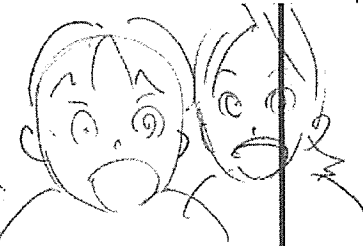


C	音声	画面	内容	秒
41	店員 「はい！」			
			走っていく店員2人	
42	店長 「わかりますか。返事がないな。 息もない。心臓が止まっている！！。 」		店長、おじいちゃんの肩をゆする	
43	店長 「講習で教わった一胸を押すんだーこ こでいいはずだ」		音楽ジャンー	
	エイド君 「さあ、ここで店長が応急措置として、 胸を押しているよね。これ、胸骨圧 迫っていうんだ。動かなくなった心 臓を助けるためだよ。押し方を分か りやすく説明するね。まず、胸を押 す場所の探し方だ。乳頭と乳頭を 結ぶ胸の真ん中がその位置。」		画面がフリーズして暗くなる。 再びエイド君登場  おじいちゃんの胸骨圧迫の場 所(乳頭間線)を明示	

C	音声	画面	内容	秒
	店長独り言 「それから、圧迫の方法は、 腕を伸ばして、まっすぐ下へ 強く押す。 回数は、えーと、そう、強く、速く」		画面もどる	
44	しろろ 「おねえちゃん！おじいちゃん大丈夫かな！おねえちゃん！どうしよう！」		心肺蘇生を試みる店長と店員、 ざわめく人達と不安そうなまこ、 しろろ。	
45	まこ 「しろろしっかりして、大丈夫よ！ 落ち着いて！」		まこ、しろろを元気づけるが、 不安そうな表情	
46			ぐったりとしたおじいちゃんと、 心肺蘇生をしている店長と店員	
47	まこ心の声 「救急車はまだ？...はやく！ はやく来て！...おじいちゃん！」		まこは、涙！！	

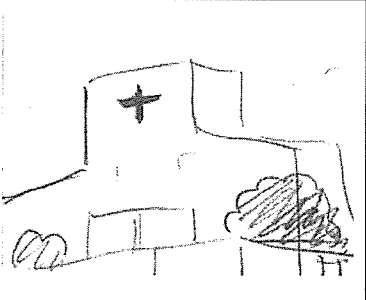
C	音声	画面	内容	秒
48	女性店員 「店長！AEDもってきました！」		店員がAEDを持ってくる。	
49	しろろ 「AED？」		AEDに興味を示すしろろ	
	エイド君 「さあ、初めてこのAEDという言葉が できたから、ちょっと説明しておくね 。このAEDは、Automated External Defibrillator の頭文字をとった略語で 、日本語で言うと、自動体外式除細 動器 つまり、止まりかけた心臓にか つを入れて元に戻す機械なんだ」		画面がフリーズして少し暗くなる。 そこにエイド君が登場	
50	これが本体で、これが装着パッド、そ れに付属品だ... じゃ、ドラマに戻る よ。」			
51	店長「君、AED 使える？」  女性店員「いいえ」  店長「じゃっ、ぼくが機器の装着をす るから、その間君は代わりに 胸骨圧迫をしてくれ！」			






C	音声	画面	内容	秒
52			<p>女性店員が代わって、心肺蘇生を続ける。</p> <p>画面の右下にエイド君が現れる。</p>	
53	<p>店長独り言 「よし、まず電源を入れて...」</p> <p>エイド君 「そうそう、落ち着いて...」</p>			
54	<p>店長 「電極パッドを貼る場所は、...ここと、ここだっ！パットの絵の通りに、しっかり押さえてっ」と</p>		<p>店長、AEDの準備をする。服を切り、電極パッドを張ろうとする。</p> <p>貼付位置の明示</p>	
	<p>AED 「からだに触れないでください。電気ショックを行います。ショックボタンを押してください。」</p>		<p>AEDの音声ガイダンスが流れる</p>	
55	<p>店長「みんな離れて」</p> <p>AED「からだにふれないでください。ショックボタンを押してください」</p> <p>店長「みんな離れてるね。よし」</p>			


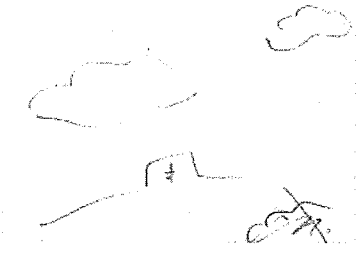

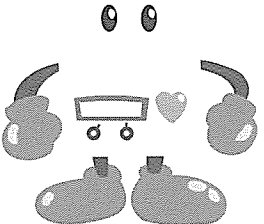
C	音声	画面	内容	秒
56			<p>店員、ボタンを押す。電気ショックが走る。          (ショックボタンの絵に「通電」という文字が書き込まれていますが、これは稲妻だけでよい)</p>	
57			<p>ピクンとなるおじいちゃん</p>	
58	<p>AED          「直ちに胸骨圧迫と人工呼吸を開始してください。」</p>			
59	<p>店長          「胸骨圧迫を再開します」</p>		<p>胸骨圧迫を再開する          店長と店員</p> <p>続いて人工呼吸を再開しようとすると。</p>	
60	<p>おじいちゃん          「う...うう...」</p>		<p>意識が戻るおじいちゃん</p>	

C	音声	画面	内容	秒
61	店長 「わア、気が付いた、息もどってる、 心臓が動き出したんだ、スゴイゾ！ ？」			
62	おじいちゃん 「う...うん...」		かすかに目を開けるおじいちゃん	
63	しろう 「おじいちゃん！だいじょうぶ！？」  まこ 「おじいちゃん！」		駆け寄る しろう、まこ	
64	しろう 「おじいちゃん！よかった」  まこ 「おじいちゃん...！」  SE ピーポーピーポー		苦しげにやさしくしろうに手をさしのべてうなずくおじいちゃん しろう、おじいちゃんの手を握る まこ、しろうとも、感激して涙！  救急車のサイレンが聞こえてくる	
65	店員 「こっちです！」		店員に連れられて救急隊員がやってくる	



C	音声	画面	内容	秒
66			<p>救急隊員がおじいちゃんに駆け寄り、 店長とやり取りなどをしている</p>	
67	<p>まこ 「よかった...」</p>		<p>その様子を見てホッと胸をなで下ろす まこ</p>	
			<p>パート4 終了</p>	
68			<p>パート5【知りたい！】 ○おじいちゃんが運ばれた病院。</p>	

C	音声	画面	内容	秒
69	<p>しろうナレーション 「おじいちゃんは一命を とりとめました。</p>		<p>情景カット。 おじいちゃんの病室。</p>	
70	<p>でも、あと少し遅かったら とても危険だったそうです。</p>			
71	<p>店長さんの対応と、AEDがおじいち やんの命を救ったんです。</p>			
72	<p>みんな、もしもこんなことが 起きたらどうする？</p>			
73	<p>僕は今度こそ慌てないで 行動できるように勉強するんだ！</p>			

C	音声	画面	内容	秒
74	<p>だって…大切な人を助けるために僕にも何か出来ることがきっとあると思うから！</p>		<p>○病院前 おじいちゃんの退院風景。</p>	
75			<p>空には青空がひろがっている。</p>	
76	<p>エイドくん ねっ、AEDってすごいでしょ。 このAEDは、実は君たちの身の回りで、いろんな所に設置されているんだ。</p>		<p>エイド君登場</p>	
	<p>たとえば、空港、劇場、スーパー、駅とか、…ねっ、見たことあるでしょ？！</p>		<p>ナレーションにシンクロして実際の設置場所の外観そして設置場所のビデオあるいは静止画が現れる</p>	
	<p>AEDは誰にでも使えるんだ、でも講習を受けた方が上手く使えるようになるんだ。講習はとても簡単だよ。もちろん、心肺蘇生を一緒にやってこそ、AEDのパワーが発揮できることも覚えていてね！それと、いたずらしちゃだめだよ。</p> <p>もし、このアニメのような場面に出会っても君ならもう大丈夫だね。じゃっ、またね。</p>		<p>台詞の後半から音楽がフェードイン、提供クレジット等で完結</p>	

厚生労働科学研究費補助金  
「循環器疾患等生活習慣疾病対策総合研究事業」  
「自動体外式除細動器 AED を用いた心疾患の救命率向上のための  
体制の構築に関する研究」(H18-心筋-01)  
(主任研究者 丸川征四郎)

分担研究 AED 教育の効果的な普及法にかかわる研究  
分担研究者 丸川 征四郎

平成18年度研究報告

## 研究課題 B

学校内における簡易型蘇生人形を用いた心肺蘇生法教育の効果

研究代表者 田中 秀治  
(国士舘大学院 救急救命システムコース 教授)

平成19(2007)年3月

## 目 次

1. 分担研究報告書	3
研究要旨	3
A. 研究目的	3
B. 研究方法	4
C. 研究結果	4
D. 考 察	5
E. 結 論	6
F. 健康危険情報	6
G. 研究発表	6
H. 知的財産権の出願・登録状況	6

表 1、アンケート調査表（質問項目）

表 2、BLS スキル評価表

図 1、BLS 授業カリキュラム（1 時間目）の実施状況

図 2、BLS 授業カリキュラム（2 時間目）の実施状況

図 3、アンケート調査結果～小学生～

図 4、アンケート調査結果～中学生～

図 5、小学生のスキル評価結果

図 6、中学生のスキル評価

## 学校内における簡易型蘇生人形を用いた心肺蘇生法教育の効果

田中 秀治\*<sup>1</sup>、安田 康晴\*<sup>2</sup>、高橋 宏幸\*<sup>3</sup>、中尾 亜美\*<sup>4</sup>、津波古 憲\*<sup>5</sup>、  
桜井 勝\*<sup>6</sup>、小峯 力\*<sup>7</sup>、

\*<sup>1</sup> 国士舘大学院 救急救命システムコース、\*<sup>2</sup> 国士舘大学院救急救命システム、\*<sup>3</sup> 国士舘大学院救急救命システム研究科、\*<sup>4</sup> 国士舘大学院救急救命システム研究科、\*<sup>5</sup> 国士舘大学院救急救命システム研究科、\*<sup>6</sup> 成蹊大学健康管理センター、\*<sup>7</sup> 流通経済大学

### 研究要旨

**研究目的：**欧米では、一般市民だけではなく、学校教育の中で段階的に BLS 教育が行なわれている。その理由は、心肺停止患者全体の 70～80% は家庭内で発生していることや、青少年期の死因の多くが BLS の実施で回避できるからである。一方、わが国では平成 14 年に小中高等学校の学習指導要綱が改訂され、CPR を含めた BLS 教育が大幅に盛り込まれた。しかし、東京都の小中高等学校の現状では学校教育の中で BLS 教育は十分に実施されていない。また、生徒への BLS 教育は学習指導要綱に示されているにも関わらず、十分実施できていない理由は学校内でのインストラクター不在、学習教材の不足、などがある。そのため授業としては十分に普及されてこなかった。また、生徒への学習効果も明らかにされていない。本研究の目的は小中高校の授業時間において簡易型蘇生人形をもちい心肺蘇生法を実施、その後の効果を検討した。

**研究方法：**対象は心肺蘇生法について一度も講義・手技などを受講したことがない小学 6 年生 30 名、中学 1 年生 78 名、合計 108 名である。

**研究結果：**小中学生ともにスキルでは「人工呼吸」の習得が十分でないものの、それ以外「意識の確認」、「応援要請」、「気道確保」「胸骨圧迫」「AED 操作」が、小中学生ともに十分習得できた。さらにスキルのみではなく、人の命を助けるという応急手当の心や倫理観を芽生えさせることがわかった。

**考察：**90 分間の BLS 授業でも小学校高学年、中学 1 年生に BLS スキルは学習可能であることが判明した。さらにスキルのみではなく、人の命を助けるという応急手当の心を芽生えさせることがわかった。

**結論：**学校授業内に実施する BLS 授業の方法として、生徒 1 人 1 人の実技時間を多く確保するために簡易蘇生人形、AED トレーナーを多く提供する本法の有用性を立証することができた。

### A. 研究目的

学校管理下の災害は 2000 年以降年間約 100 万人で、死亡事故については年間約 130 件発生している。(独立行政法人日本スポーツ振興センター統計より)。

一方、心肺停止時の心室細動には自動体外式

除細動器 (Automated External defibrillator 以下 AED と記載) による除細動が最も有効な治療手段であり、AED による処置が 1 分遅れるごとに救命率は 7～10% 減少する。よって、心肺停止患者を救命するためには、市民による CPR 実施が不可欠であり、BLS 教育を広く普及させ

て行く必要がある。

欧米では、一般市民だけではなく、学校教育の中で段階的に BLS 教育が行なわれている。それは、心肺停止患者全体の 70~80%は家庭内で発生していることや、青少年期の死因の多くが BLS の実施で回避できるからである。

一方、わが国では平成 14 年に小中高等学校の学習指導要綱が改訂され、CPR を含めた BLS 教育が大幅に盛り込まれた。しかし、東京都の小中高等学校の現状では学校教育の中で BLS 教育は十分に実施されていない<sup>3)</sup>。

生徒への BLS 教育は学習指導要綱に示されているにも関わらず、十分実施できていない理由は学校内でのインストラクター不在、学習教材の不足、などがある。そのため授業としては十分に普及されてこなかった。また、生徒への学習効果も明らかにされていない。

本研究の目的は小中高校の教育において効果的な教材を用いた応急手当を授業時間内で生徒に実施させ、その後の、スキル習得率授業前後の心理変化を測定した。また、授業後、BLS 教育が生徒に与える影響を調査し、授業時間内で学習できる BLS 教育の確立を目的とするものである。

## B. 研究方法

対象は小学 6 年生 30 名、中学 1 年生 78 名、合計 108 名を対象に表 1 にしめす心肺蘇生法を授業時間内で実施した。今回の対象となる小学生・中学生はいずれも本講義を受ける前に心肺蘇生法について一度も講義・手技などを受講したことがないものを選択した。

インストラクターは小学生 30 名に対して、医師または救急救命士などの AHA あるいはそれに準じる BLS の指導資格を有する救急医療関係者（救急救命士 2 名、救急標準課程隊員 3 名）が指導した。中学生 78 名には救急救命士 4 名が指導した。小中学生とも担任の教員が補助に入り、1 時限目は担任の教員が、2 時

限目はそれぞれのインストラクターが指導を担当した(図 1, 2)。

なお BLS の指導内容は AHA-Guideline2005 に準拠した

授業時間は 1 時限 45 分間を 2 時限分 90 分間である。1 時間目は DVD を使用した座学授業と内容に対するディスカッション、2 時限目は簡易型心肺蘇生人形（以下簡易蘇生人形と記載）を 1 人 1 体、AED トレーナーを 2 人 1 台使用してスキルトレーニングを行った。授業前後でアンケート調査を行い、BLS 授業前後の心理変化を調査した。

また授業終了時にスキルチェックを行い、技術の習得率を AHA のヘルスケアプロバイダーの評価項目に準じて以下の項目について 3 段階で測定した。

各調査結果は Microsoft Excel にて単純集計を行った。アンケート調査は、各質問項目に対し回答した人数を、授業前後で比較し  $\chi^2$  検定を行い P 値が 5%未満を有意差有りとした。スキル評価は、データを項目ごとに平均し、数値を mean±1S. D. で示し比較した。

なお調査内容と研究計画は国士舘大学倫理委員会で審議し、各学校関係者にアンケート調査、スキル評価の意義を十分に説明し、口頭と書面にて承諾を得てから実施した。

## C. 研究結果

### 1) アンケート調査(表 1)

小学生ではこの 2 時間の授業を受講したあおのアンケート調査では、「救急車を呼ぶ」「胸骨圧迫」「人工呼吸」「AED 操作」「自分から行動できる」「応急手当を教えられる」の 6 項目でいずれも統計学的に有意な改善をみた(図 3)。

中学生では「声をかける」「大人の人を呼ぶ」「胸骨圧迫」「人工呼吸」「AED 操作」「命を大切に思う」「自分から行動できる」「応急手当を教えられる」の 8 項目で統計学的に有意な変化が認められた。とくに BLS スキルに対する

3 項目は小中学生とも極めて変化が大きくも自らの主観的な行動に対しても変化が認められた (図 4)。

## 2) スキル調査(表 2)

スキル評価では、「意識の確認」、「応援要請」、「気道確保」、「人工呼吸」、「胸骨圧迫」、「AED の操作」の 6 項目の評価中、小中学生ともに「人工呼吸」の平均値は最も低いものの、小学生では「意識の確認」、「応援要請」、「気道確保」、「胸骨圧迫」、「AED 操作」のいずれもが、平均 2 点以上となっていた (図 5)。

また、中学生では「意識の確認」から「胸骨圧迫」「AED 操作」まで、いずれも平均値が高く、スキルが十分習得できていることが判明した (図 6)。

## D. 考察

本研究では学校授業内で学童・生徒を対象とした BLS 教育を開発し、その効果を検討した。今回の研究結果では、過去に BLS の受講経験のない児童・生徒でも 90 分間の BLS 授業によって BLS スキルは学習可能であることが判明した。さらにスキルのみではなく、人の命を助けるという応急手当の心を芽生えさせることがわかった。

今回の BLS 授業では、授業時間を普通救命講習会の半分にあたる 90 分間でカリキュラムを作成した。DVD を用いた視聴覚教材では BLS の専門的知識を補い、簡易蘇生人形を 1 人 1 体使用することで、実技時間を増やし短時間で学習する構成にした。

授業前後のアンケート調査結果からは、「BLS スキル」や「家族や友人の命に対する認識」の項目で有意に変化が認められた。DVD を使用し BLS の知識や技術を分かりやすく伝えたこと、生徒 1 人 1 人に簡易蘇生人形を提供し実技トレーニング時間を 40 分前後確保したことが影響を与えた理由と考える。

スキル調査からは、BLS スキルの中で最も重要な「胸骨圧迫」「AED 操作」の平均値が 3 段階評価の 2 点以上であった。よって本研究のような 90 分の BLS 授業でも小中学校生徒に対し BLS スキルは学習可能であるといえる。

海外では、学童を対象とする心肺蘇生教育は 1970 年代から開始され最近では北欧諸国で盛んなる社会的支持のもと徐々に拡大している。1986 年に米国小児学会は 14 歳から 18 歳への心肺蘇生教育を提唱し、1990 年代以後は北欧、英国、カナダ、米国などを中心に学校の教育によって多大な効果を上げている。

現在、野乃木らの調査では、心停止の 70~80% は家庭内で発生すると報告されている。実際、家庭内には青少年がいることが多く、家庭内での第一の救助者となりうるのである。また学童期の不慮の事故による死亡は死因の第一位を占めている。学童期のおもな死因が溺水、窒息、故意ではない障害など心肺蘇生で治療可能なものであることを考えれば、小中学校での心肺蘇生教育はますます重要である。

一方、現在の中学・高校の保健体育の授業現在の中学・高校の保健体育の授業では心肺蘇生法の重要性は教科書や教育指導要領に記載されていながらも、1) 教員の指導方法が確立してないこと (教育体制の問題)、2) 指導に使用する心肺蘇生人形の不足 (器材) が問題となり、十分な実技教育が行われているとはいえない。

東京救急協会が数年前に行った調査によれば東京都における学童の BLS 受講率は高校生 2.61%、中学生 0.38%、小学生は 0% であり、その対象のほとんどが成人であり、小学生を対象にした、また小学生に特化した心肺蘇生法は行われていない。



本年行った我々の調査でも（右上）18歳年齢時のBLS（一次救命処置）経験は、1）教習所 2）保健体育教育 3）講習会がトップ3に挙げられているものの、実技をみると、確実な手技の取得はできておらず、学校教育内の教育が十分でないことが明らかである。これらの問題は前述した教育体制と器材の不足といった双方の問題が大きく関わっていると考えられる。実際、今回我々がもちいた簡易型蘇生人形を用いると、生徒1人1人の実技時間を多く確保することが可能であった。

東京救急協会が実施しているBLSコースの普通救命講習会はインストラクター1名に対し、受講者10名、訓練人形1体で構成されている。仮に180分間すべて実技に費やしても1人あたり実技時間は18分程である。この数字をみても、学校教育で簡易型人形を使用する必然性が理解することができる。

今回われわれの研究でAEDを含む他の心肺蘇生技術を実施することを「初等教育の方針」とすると、18歳年齢で最低3回、心肺蘇生法を経験でき、わが国の応急処置実施率を100%にすることが理論的に可能である。本研究は心肺蘇生法の修得はもとより、生命に対する倫理観をも養おうという観点から極めて重要な研究であると考えられる。我々の提案する救急版「命の教育」プログラムを全国の小中学校の授業時間に合わせ、実施できれば、人の命を大事にする子供の心、「美しい国日本」を実現する端緒になりうると信ずるものである

次年度は、次年度は、対象を広げて効果を検討すると共に、質的な向上、教育効果の持続などについて検討を進め、学校教育への導入の方策を検討する予定である。

## E. 結論

日本では、学校授業内でBLS教育は十分に実

施されず、効果も検討されてこなかった。今回の研究では、90分間のBLS授業でも小学校高学年、中学1年生にBLSスキルは学習可能であることが判明した。さらにスキルのみではなく、人の命を助けるという応急手当の心を芽生えさせることがわかった。

学校授業内に実施するBLS授業の方法として、生徒1人1人の実技時間を多く確保するために簡易蘇生人形、AEDトレーナーを多く提供する本法の有用性が考えられた。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

## 引用参考文献

- 1) AHA ; Guideline 2000 for cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care ; 14-415 ; 11-12 : 2000
- 2) 救急救命士教育研究会 ; 救急救命士標準テキスト第6版 : へるす出版 : 358-360 ; 2005
- 3) 東京救急協会 ; 小・中・高校生及びホームヘルパーに等に対する救命講習のあり方 : 37-40 ; 2000
- 4) Lanhelle A, Lossius HM, Silfvast T, et al. International EMS systems: the Nordic countries. Resuscitation 61, 2004, 9-21.
- 5) Isbye D.L. Rasmussen L.S., Knudsen F., Laypersons may learn basic life support in 24min using a personal resuscitation manikin. Resuscitation 69, 2006, 435-442.

表1. アンケート調査表(質問項目)

アンケート調査表	
1.	家族や友達が倒れたときに、救急車が呼べますか。
2.	家族や友達が倒れたときに、声をかけられますか。
3.	家族や友達が倒れたときに、大人の人を呼びにいけますか。
4.	家族や友達が倒れたときに、胸骨圧迫はできますか。
5.	家族や友達が倒れたときに、人工呼吸はできますか。
6.	家族や友達が倒れたときに、AED は使えますか。
7.	家族や友達の命を大切だと思えますか。
8.	家族や友達が倒れたときに、自分から行動できますか。
9.	家族や友達が倒れたときに、みんなで協力できますか。
10.	応急手当を学びたいと思えますか。
11.	応急手当は必要だと思えますか。
12.	応急手当を家族や友人に教えられますか。

表 2. BLS スキル評価表

BLS スキル評価表		
1. 意識の確認:蘇生人形に触り、声をかける		
2. 応援要請 :119 番通報、AED 要請		
3. 気道確保 :頭部後屈法		
4. 人工呼吸 :胸が上がること		
5. 胸骨圧迫 :押したときにクリック音が鳴ること		
6. AED 操作 :電源を入れる、パットを貼る、ショックボタンを押す		
評価の基準		
全て正しくできた	*****	2 点
おおよそできているが、どれかが抜けた	*****	1 点
まったくできていなかった	*****	0 点

図1 BLS 授業カリキュラム(1時間目)の実施状況

### 救急版「命の教育」の実施



- 1時間目 講義 (45分)—
- ・イントロダクション
- ・DVD視聴
- 「命の重要性  
心臓蘇生法と救急の輪」
- ・ディスカッション
- 命の重要性について話し合おう

心肺蘇生法の視聴覚教材を視聴し、その後命の重要性についてディスカッションする。

図2、BLS 授業カリキュラム(2時間目)の実施



- 2時間目 実技 (45分)
- 
- 意識の確認
- 心臓マッサージ
- 人工呼吸
- AED操作
- まとめ

簡易型心肺蘇生人形を使用し、心肺蘇生法を体験する。